

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	令和3年度第1回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	書面開催(令和3年度5月24日(月)に資料配布)
開 催 場 所	書面開催
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：(10名) 諸橋 泰樹、堀上 みち子、森本 秀子、鈴木 友理、石橋 正隆、市川 真子、椎野 芳挙、武田 亘弘、原田 夏果、南 葉子 ※書面開催のため、全員出席とする
議 題	ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度について
結 論	ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度について、委員の意見を通じて課題や意義を確認した。
備 考	新型コロナウイルス感染症の影響により、書面開催にて実施。
審 議 経 過	<p>会議の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員への各種資料の配布(令和3年度5月24日(月)) (ワーク・ライフ・バランス推進事業所チェックシート、武蔵村山市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度(案)、第1回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会意見書、第1回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会の書面開催及び資料の送付について(通知)、ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定変更申請書、ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定申請書、ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定書、武蔵村山市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定要綱)</li> <li>2. 委員による自事務局への意見書の提出(令和3年度6月7日(月)締切)</li> <li>3. 意見書に対する事務局の回答(令和3年度6月24日(木))</li> </ol> <p>— ワーク・ライフ・バランス推進事業所チェックシートについて —</p> <p>(発信者) ●印：委員 □印：事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 【多様な働き方・生き方が選択できる社会に向けて】の「人事配置・昇任・昇格は(以下略)」の並びに「採用」も加えてみてはどうか。</li> <li>● 採用時の条件に男女格差がないことを確認する項目が必要ではないか。</li> <li>● 実施中と実施予定の2項目より、数値化して得点方式にした方がいいと考えている。実施中でも、「大いに出来ている」は5点、「実施しているがまだ改善が必要」は3点、「始めたばかり」は1点、「実施予定」は0点、というようにしてはどうか。</li> <li>● すべて自己申告になるので、信憑性に欠けるのではないか。</li> <li>● 実施予定にチェックが入るのであれば○年△月予定といった具体的なものを明記できるところがあれば良いと思う。</li> <li>● 育児・介護休業取得者が一定以上居る(例えば「過去3年間に2人以上居る」など)ことを具体的に求めてみてはいかかが。昇任・昇格の箇所についても、「女性の管理職が過去3年間に1名以上誕生している」というような具体的な指標があっても良いと思う(この場合、実情に合わせて人数や期間の数値は変えるとする)。</li> </ul>

□ それらのワーク・ライフ・バランス推進事業所チェックシートについての意見については、事務局にて再考し、庁内の推進委員会の意見も踏まえ、改めて検討していく。

— 武蔵村山市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度（案）  
について —

(1)ワーク・ライフ・バランスとは

- 正規も非正規も誰もが対象だと考えます。
- もう少し踏み込まないと、「とりあえずやっています感」はぬぐえないと思う。
- 市民への説明、周知徹底を図らなければ認定の意味がないと思う。
- ワーク・ライフ・バランスという言葉自体がまだ広く認識されていないと思いますので、どのように定義を広めていくかを考える必要がある。

(2)ワーク・ライフ・バランスの必要性

- 幼少期からの教育が必要。文化や芸術との融合等、なぜ必要なのかを常に意識する必要がある。
- ストレスのない社会、地域、家庭にするため、必要な要素だと思う。
- 少子高齢化に焦点があたりがちですが、ストレス社会になっていることもまたワーク・ライフ・バランスの必要性に繋がっていると思います。大体のことはデジタルで出来てしまう現代社会において、プライベートと仕事の境目がわかりづらくなりがちかと思えます。プライベートと仕事の境目をきちんと区別し、自分の望むバランスを崩さないメリハリのある社会になると良いと思いました。

(3)ワーク・ライフ・バランスの効果

- 効果を見える化し、検証が必要。やれば良いわけではない。
- その人が求めている物、事にどうやって到達するか。その手助けになるのがワーク・ライフ・バランスだと考えている。
- 生活にメリハリが出たり、仕事へのモチベーションがUPしたりするのはもちろん、心身の健康保持増進にも繋がっていくと思いました。またスキルUPをする時間も増やせるようになるため、ゆくゆくは会社へのリターンも大きくなると思いました。

(4)近隣自治体との要綱案比較（主な事項）

- 認定期間はなぜ3年なのか。その後は取り消しになるのか。それとも抹消されたり放置されたりするのか。
- 一定期間の効力を持たせることにより、ワーク・ライフ・バランスの促進、啓発を促すことを目的としているため、3年という期間を設定している。認定期間終了後については、再認定することも有る。また、2クール目は「シルバー」、3クール目は「ゴールド」というように、再認定の数でランクがあがっていく仕様も検討していく。
- 他市との比較は意味がない。独自のものを考えていくべきではないか。
- 他自治体の制度を見ていただく機会を設けた項目である。武蔵村山市としては独自の制度を構築していく。
- 要綱案を比較し、補い合うのは良いが、要綱案の競争や他自治体と比較し優越感を味わう等の流れに発展する可能性があるのではないか。

(5)武蔵村山市が「ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度」を必要とする理由

- 市や企業のメリットとなり得るためにどう発信していくのか。が大切だと思います。イメージづくりをどうしていくつもりなのか。
- 市報及び市ホームページ等で公表し、事業所や制度の周知をしていく。
- 他市より文化、芸術の致命的な遅れが目立つのはバランスに欠けているためと思う。
- 認定後、それを維持することにより、他の事業所へワーク・ライフ・バランスが発展していくと考えている。
- 認定事業所を増やしていくために、認定後も認定事業所及び制度の周知をしていく。
- 企業イメージが向上するだけでなく、選択の幅が広がることで若い人材も働きやすい市を作ることが出来ると思います。若い方が働きやすい市になることで、若い方の市外への流出を防ぎつつ都内近郊からも新たな住民を得ることが出来るのではないかと思います。
- 多くの事業所を認定し、より有意義な制度となるよう取り組んでいく。

(6)「ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度」の全体イメージ

- イメージづくりが大きなカギになると思います。
- なんとなくは分かるが知っている人はいないし、私も知らなかった。
- 市 HP にチェックシートや認定された事業所を紹介することでワーク・ライフ・バランスの定義拡散に貢献できると考えている。
- 市報及び市ホームページ等で公表し、事業所や制度の周知をしていく。
- 現状、男性の育児休暇はあってないようなものという話をよく伺います。中には実際は出勤しているという話を聞くこともあります。またパワハラなども隠蔽されてしまうことがほとんどです。なので、チェックシートの提出で認定するのは不十分なように感じます。実績の提出やパトロール、面談等プラスアルファの評価方法があっても良いのではないかと思います。
- 事務局にて再考し、庁内の推進委員会の意見も踏まえ、改めて検討していく。

(7)スケジュール案

- 周知徹底が先だと思います。

— ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定申請書について —

- 主なワーク・ライフ・バランスの内容についての記入を具体的にさするにはスペースが不足している感じがある。
- 内容記載用に別紙で対応する形で考えている。
- 申請書とチェックシートのみでは、自己申告制になるため信憑性に欠けると思います。今まで会社で行ってきた取り組み等の実績報告や、面談等をして認定をしたほうがしっかりとした根拠をもった制度になるのではないかと思います。
- チェックシート以外の審査方法についても、庁内の推進委員会の意見

	<p>も踏まえ、改めて検討していく。</p> <p>— ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定変更申請書について —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 何を目的とした変更届としているのかがこの書類では読み取れない。下方に具体的な理由又は目的を記入される様式にするとわかりやすいと思う。</li> <li>□ 認定事項の変更を把握することを目的とした申請書である。理由、目的の記載については、事務局にて再考し、庁内の推進委員会の意見も踏まえ、改めて検討していく。</li> </ul> <p>— ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定書について —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3年という期限を設けるならそれを明記したほうが良いと思う。</li> <li>□ 事務局にて再考し、庁内の推進委員会の意見も踏まえ、改めて検討していく。</li> <li>● 認定番号がついていた方が、後々管理しやすいのではないかと思います。</li> <li>□ 事務局にて再考し、庁内の推進委員会の意見も踏まえ、改めて検討していく。</li> </ul> <p>— 蔵村山市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定要綱について —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業所が必要としているのか不明である。効果が見えているのか。</li> </ul> <p>— その他、男女共同参画に関して御意見等について —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● このワーク・ライフ・バランス推進事業所認定制度により、性別を問わず育児・介護休業が取得しやすく、また、性別問わず能力を評価する事業所が増え、働く喜びと育児など生活の喜びが大きく感じられる社会になることを期待します。</li> <li>● 本当に必要な事業ならば、もっと皆が知らなければ意味がない。知らせるべきだと感じた。</li> <li>● SDGs（持続可能な開発目標）にも「働きがい」の項目があるように、①ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定を受けた企業は隔年程度で推進事業に基づいた実績報告を提出させても良いのではないかと思います。②認定を受けた企業向けに、ステッカーを配布して、玄関に貼ることが出来るような工夫があっても良いかと思いました。</li> <li>□ 事務局にて再考し、庁内の推進委員会の意見も踏まえ、改めて検討していく。</li> </ul> <p>上記のとおり、委員が提出した意見書に対する事務局の回答をもって令和3年度第1回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会を終了とする。</p>
--	--

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開</p> <p><input type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>[ ]</p> <p style="text-align: right;">傍聴者： _____ 0 人</p>
--------------------	---

✓

